

## SDGs 達成に向けた経営方針等

弊社の企業理念である、「"日本のものづくりの心"を世界に伝え、安心安全で豊かな社会の実現に貢献する。」は、SDGsの達成と目的を同じくするものであり、社員ひとりひとりが、そのことを自覚し、それぞれの役割を果たしていくことにより、SDGsの達成に貢献していきます。

### 重点的な取組 1

#### 内容

CO2 排出量 10%削減(2019)

#### 2030 年に向けた指標

2019 年 (100) →2030 年 (90)

#### 進捗状況

(2021 年 1 月)

CO2 排出量(t)

2018/10~2019/9 (弊社 55 期) 60.81

2019/10~2020/9 (弊社 56 期) 60.38

→0.7%の削減

56 期にエアコンを省エネタイプに更新した。冬の暖房も灯油→電気に変わったので、今期冬の実績により再評価が必要である。

(2022 年 1 月)

2020 年 7 月に期末にエアコンを省エネタイプに変更。(※今回、重みづけ見直し数字昨年度報告数字と変わっています)、

## CO2 排出量(t)

2018/10～2019/9 (55 期) 56.21

2019/10～2020/9 (56 期) 56.65→55 期比で 0.8%の増加

2020/10～2021/9 (57 期) 53.05→55 期比で 5.6%の削減

現在、CO2 排出量ゼロの再生可能エネルギー電力への切替等を検討中で、さらなる CO2 削減を目指す。

(2023 年 1 月)

## CO2 排出量(t)

2018/10～2019/9 (55 期) 56.21※

2019/10～2020/9 (56 期) 56.65→55 期比で 0.8%の増加

2020/10～2021/9 (57 期) 53.05→55 期比で 5.6%の削減

2021/10～2022/9 (58 期) 56.23→55 期比でほぼ横ばい

生産量増加により使用電力が増えた。

工場内でさらなる省エネ活動を実施して行くが、目標の再設定なども視野仕入れて活動を推進する。

## 重点的な取組 3

### 内容

次世代高速通信に対応したコネクタの開発(2019)

### 2030 年に向けた指標

製品の高周波数化、高速化

2019 年 (～70GHz 帯) →2030 年 (～300GHz 帯)

### 進捗状況

(2021 年 1 月)

110GHz 対応の W コネクタは、量産化され、米国を含め需要が伸びた。

145GHz 対応の 0.8mm コネクタは、量産販売には至っていないが、今後の

6G 通信への使用が見込まれており、今期、需要は伸びてくるものと思われる。研究開発段階であるが、さらにその上の周波数帯対応コネクタの開発を進めている。

(2022 年 1 月)

今期、0.8mm(145GHz) – 1.0mm(110GHz)アダプタ、130GHz 対応の 1.0mm コネクタ付ケーブル等の量産化に取り組んだ。さらに、今後、5G の次の 6G (2030 年～) を見据えた高周波化にも取り組み、340GHz 帯測定システム用誘電体導波路の開発を開始した。

(2023 年 1 月)

昨年に引き続き同等クラスの製品開発を継続している。例として 0.8mm レセプタクルの開発が完了した。340GHz 帯測定システム用誘電体導波路の開発も継続中。

## 独自の取組

最高 145GHz までの高周波対応同軸コネクタ・ケーブルや、フェーズシフタ、フィルタ等の高周波コンポーネントを開発・製造しております。電磁界解析と、永年のノウハウに基づく独自設計と、国内工場での高精度・高品質な製造により、とりわけミリ波帯域での優れた高周波特性で他社との差別化を実現しております。また、部品単体のみならず、お客様の高周波設計課題へのソリューションを提供致します。